

応募にあたって知っておいて欲しいこと

応募にあたっては、所属先(地方競馬場の厩舎)を決めてからでも、あるいは決まっていなくても構いません。しかし、大切な人生の目標としてこれから進む道ですので、競馬社会を良く理解して応募して下さい。

1 騎手という職業

最近、競馬に関するゲームや雑誌で得た知識から、騎手という職業についてよく理解せず、単なる憧れで応募してくる人がいますが、プロ騎手は大変厳しい職業であることを認識してください。

毎年、入所早々教養センターの訓練・生活が辛いとのことで辛抱できず、騎手への夢を絶って退所する騎手候補生がいます。いわゆるホームシックやカルチャーショックもありますが、騎手になるという意志の弱さが一番の原因だと思われます。

事前に騎手という職業についてよく調べ、また周りの方と相談して応募することが必要です。

2 体重調整

騎手にとって体重調整は最も重要なことの一つです。当センターでの教育期間中、騎手候補生は年齢区分毎に規定体重が指定され、修了時の規定体重は49.0kgとなっています。そのために騎手候補生の中には毎日の食事を制限したり、ランニング等で体重調整を行ったりしている者もいます。候補生は2年間で2~4kgは体重が増加しますので、一時的に無理な減量をしてセンターに入所しても、体重調整に苦勞し、結果的に退所に至るのが現実です。

3 起床時間

当センターの起床時間は午前5時半(夏期は4時半)ですが、競馬場では騎手は毎日午前2時頃から起床し、9時頃まで10数頭の競走馬の調教を行っており、仕事はかなりハードなものです。

4 修了生の感想文から(一部抜粋)

◆第99期騎手候補生K君(令和2年3月修了)

入所してから半年は、自分自身、馬、時間、人など様々なことを考え精一杯の生活で、とにかく余裕のない毎日でした。毎日のように先生方に指導されては心やられ、同期の皆で助け合い死にものぐるいだった赤帽生活が、将来自分の中で大切な宝物のような時間になることと思います。青帽では本格的な競走騎乗が始まり、毎日がとにかく新鮮でした。1日1日がどれだけ大切なのかがよくわかり、いろいろなことを考えて騎乗する毎日でした。JRA 対抗戦があり、自分なんかのレベルでは相手にならないと思っていましたが、いざ戦ってみるとそれほどの差は感じませんでした。それだけ、教官の指導や同期との高め合いにより、技術向上していたことに気づき結果は別として自信ができました。

実習ではセンターで学んでいたことのはるか上をいく厳しい世界でした。毎日、訓

練以外の時間も日々が勉強で、社会人のあり方やコミュニケーションの大切さを感じました。また、自分の未熟さを思い知らされました。実習で学んだこと、失敗や成功など経験したことを今後につなげて行きたいです。

今思えば、どんなに辛いときも励まし合い、助け合い、同期の皆には感謝しかありません。初心を忘れず、今後精一杯競馬場を盛り上げていきます。

◆第 99 期騎手候補生 N 君（令和 2 年 3 月修了）

2 年前の 4 月、希望と不安をかかえ入所しました。最初は右も左も分からず時間に追われる毎日でした。1 カ月過ぎてだんだん生活にも慣れてきて心と体に余裕が出てきました。赤帽の頃は技能審査（馬場）で、自分にとっては難易度の高い馬に乗せてもらえたが、全然上手くいかず毎日居残りで訓練して苦しい思いをしました。半年が経ち青帽になると競走訓練が始まりました。ポニー競馬をしていたのであまり苦ではなくて、ただ姿勢や反動の受け方などを気にして乗っていました。橙帽になって本格的に競走訓練がはじまりました。最初の頃は全く感覚がつかめず、周りのみんなが難しい馬に次々に乗れるようになる中、自分一人だけ毎日のように引っかかってしまい 2 ヶ月ぐらい苦しい時期もありました。実習に行く 1 ヶ月前ぐらいにやっとそれなりに乗れるようになりました。実習では、乗る頭数や生活リズムも全く違い、楽しかったけど凄くハードな 6 ヶ月でした。

今、こうして騎手になるスタートラインに立てるのも沢山の人たちのおかげです。家族や、調教師や厩務員さん、教官の先生や管理課の方たち、そして訓練馬たち。沢山の人達に感謝の気持ちを伝えたいです。これからも努力をして技術的にも人としても一流になって、レースに勝つことでこの気持ちを伝えたいです。